

IV 各教科の分析結果

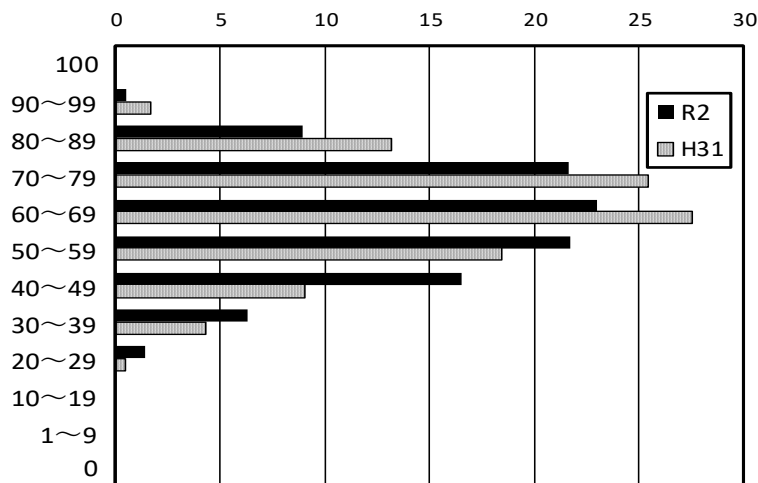
国 語

1 得点分布及び大問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	割合 %	R2 %	H31 %
100	0.0	0.0	0.0
90～99	0.5	1.7	1.7
80～89	8.9	13.2	13.2
70～79	21.6	25.4	25.4
60～69	23.0	27.5	27.5
50～59	21.7	18.4	18.4
40～49	16.5	9.0	9.0
30～39	6.3	4.3	4.3
20～29	1.4	0.5	0.5
10～19	0.0	0.0	0.0
1～9	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0

〈グラフ〉得点分布



*合格者の中から、無作為に抽出した630人(14.3%)の結果である。

〈表2〉大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
㊦	文学的な文章	68.8	67.2	57.3	72.6	67.8
㊧	説明的な文章	57.4	65.3	58.9	67.3	59.0
㊨	言語活動	49.2	69.2	48.6	56.1	59.3
㊩	古典	58.9	52.0	62.3	59.4	54.4

2 分析結果の概要

合格者の国語の平均点^(※)は、58.8点で、昨年度と比べ下降した(昨年度62.8点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,417人のものである。

〈表1〉に関して、60点台の人数が全体の23.0%で最も多い(昨年度も、60点台で27.5%)。70点以上の人数は全体の31.0%で、昨年度に比べ減少した(昨年度40.3%)。40点未満の人数は全体の7.8%で、昨年度に比べ増加した(昨年度4.8%)。

〈表2〉について、㊨の問題の正答率が昨年度より高かった。一方、㊦、㊧、㊩の問題の正答率は昨年度より低かった。

「3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい・正答率」について、正答率80%以上の問題数は11問で昨年度に比べ減少した(昨年度13問)。基礎的・基本的な言語事項や内容を問う問題の正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は5問で昨年度に比べ増加した(昨年度4問)。文章や資料から読み取った情報を思考・判断して表現する設問の正答率が低かった。具体的には、漢字の読み書き(㊦の問一)、文語のきまり(㊩の問二)、訓読の仕方(㊩の問三)といった言語事項、文章の展開に即して登場人物の言動や心情をとらえる(㊦の問三)、場面や登場人物の設定の仕方をとらえた内容の理解(㊦の問五)、抽象的な概念を表す語句に注意した読み(㊦の問四)、社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら、自分の考えをまとめる(㊨の問三)といった、選択肢の中から解答する問題の正答率が高かった。一方、登場人物の言動の意味を考えた内容の理解(㊦の問四)、目的に応じて文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする(㊦の問六)、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書く(㊨の問五)、作者の思いなどの想像(㊩の問四1)といった問題の正答率が低かった。

3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい・正答率

大問	小問	学年・領域	出題内容・ねらい	正答率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
二	問一	文学的な文章	①	93.7											
			②	87.0											
			③	80.5											
	問二		86.5												
	問三		96.8												
	問四		19.0												
	問五		90.5												
三	問一	説明的な文章	①	74.9											
			②	49.4											
			③	46.8											
	問二		67.6												
	問三		87.1												
	問四		87.3												
	問五		42.2												
四	問一	言語活動	四字熟語に関する知識を広げ、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。	69.8											
	問二		単語の類別について理解することができる。	54.9											
	問三		社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら、自分の考えをまとめることができる。	87.9											
	問四		話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うことができる。	76.9											
	問五		論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くことができる。	34.5											
四	問一	古典	文の成分の照応、文の構造について考えることができる。	60.0											
	問二		文語のきまりを知り、古典の世界に触れることができる。	92.2											
	問三		訓読の仕方を知り、古典の世界に触れることができる。	82.4											
	問四		1	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像することができる。	20.4										
			2	69.1											
	問五		歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。	71.4											
問六	漢字の行書の基礎的な書き方を理解することができる。	17.5													

4 特徴的な問題

<ねらい>

この問題は、登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立つ問題である。

<分析>

正答率は19.0%であった。課題としては、登場人物の言動の意味を叙述に即して考えながら、心情の変化の過程をとらえ、さらに条件に適する形で表現できていないことなどが考えられる。

<提案>

日常の指導では、登場人物の言動の意味を、話の展開や作品全体に表れたものの見方と関連付けて考えさせたり、叙述を根拠にして読み取った内容を、言葉と言葉の関係に注意しながら、自分の言葉で表現させたりする機会を増やすなどの工夫も必要である。

<ねらい>

この問題は、目的に応じて文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする問題である。

<分析>

正答率は39.4%であった。課題としては、二つの文章を読み比べて趣旨を読みとり、得た知識や情報をもとに、条件に即して考えをまとめられていないこと、文章全体を論の展開でとらえていないことなどが考えられる。

<提案>

日常の指導では、段落ごとの内容を把握するだけでなく、文章全体の論述の過程から書き手のものの見方や考えの進め方を読み取り、それを自分と対比させて新しい考え方を知ったり、自分の考えを再構築したりする機会を設けるなどの工夫も必要である。その上で、新たな知識や考えが次の読書に結びついていくことを実感させる工夫も必要である。



問四 文章中に――線②――

「とあるが、このときの小早川さんの気持ちを、そのような気持ちになった理由も含めて、五十字以内で説明しなさい。

※著作権の関係により、問題の一部について掲載しておりません。

<標準解答>

(例)自分をほめてくれた「わたし」にならわかってもらえらると思つたので、不安を打ち明けようと決めた気持ち。



問六

ⅠとⅡの文章によると、複雑なテーマの論文を書く場合には、どうすればよいか。「書く」ことによる効能が分かるように、七十字以内で説明しなさい。

<標準解答>

(例)脳の処理容量を超えた情報を扱うことができるように、紙に書き出しながら考え、頭の中の考えをはっきりさせるように、何度も書きなおしをすればよい。

<ねらい>

この問題は、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く問題である。

<分析>

正答率は34.5%であった。課題としては、条件や話合いの内容に従い、複数の資料から必要な情報を取り出して適切に引用できていないこと、論理の展開や、文章を書く目的を意識できていないことなどが考えられる。

<提案>

日常の指導では、話合いの目的や相手の発言の意図を理解した言語活動ができているか、論理の展開を工夫し、目的や状況に応じた資料を適切に引用して、説得力のある文章が条件に沿って書けているかを、生徒相互、指導者が評価しながら進めるなどの工夫も必要である。

<ねらい>

この問題は、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像する力をみる問題である。

<分析>

正答率は1が20.4%、2が69.1%であった。課題としては、現代語訳を参考にしながら、作者が伝えたかったことがとらえられていないことなどが考えられる。

<提案>

古典を読むための知識や技能の定着を図ったり、現代語訳を理解したりするだけでなく、現代語訳や語注をとおして、古典作品から読み取れる当時のものの見方や考え方をまとめたり、作者の思いなどを想像したりする活動を取り入れるなどの工夫も必要である。

三

〈話し合いの様子〉

「皆さん、このクラスでは、国語の授業で「世界から選ばれる観光地やスポット」のテーマで「〇〇」という課題について、県の観光関係者の方、グループごとに具体的な取り組みを決めて提案する学習を行っています。次は、先生から配られた資料1、皆さんがグループの話し合いの様子をおよび話し合いに持ち寄った資料1、資料4です。」

裕真 発表ありがとうございます。それでは、取り組みを考えたいのは発表してください。
知子 年々増加する訪日外国人客に、最も役に立ったと思われる情報を発信するとよいと思います。例えば、資料3にこの情報を付け加えた案内書を、先生から配られた資料の「発信者責任型文化」の考え方を生かして作るのはいかがでしょうか。
裕真 皆さん、知子さんの意見についてどう思いますか。
香翠 私は、資料3に最も役立つ情報を付け加えることに賛成です。私も賛成ですが、「発信者責任型文化」の考え方をもちと表記に生かしたいです。資料3は、私たちが、県内の位置関係、観光情報を知って、記号が意味する共通のイメージもあるから分かりますが、外国の方には、日本語や記号だけでは伝わりにくいからです。
貴史 私も知子さんと志穂さんの意見に賛成です。私が以前、外国に



問五

「話し合いの様子」全体を踏まえて、「訪日外国人に宮崎県で安心して観光を楽しんでもらうために必要なこと」について、グループの提案を作成します。(グループの提案の記入欄に入る適当な表現を、後の条件に従って、九十文字以内で書きなさい。)

グループの提案

訪日外国人に宮崎県で安心して快適に観光を楽しんでもらうための取り組みを提案します。資料3に情報を付け加えた案内書を作るのはいかがでしょうか。
その際に必要なことは、
です。

- ・文めには、資料3に付け加えるより具体的な情報と、文字情報の表記方法を、それぞれ書くこと。
- ・文めには、それが必要なる理由を、「発信者責任型文化」の考え方で説明すること。
- ・改行せずに続けて書き、資料名は挙げなくてよい。

〈標準解答〉

2 1

嫌疑(例) 追討使の派遣を決める立場

四

問四

古文Aに〃〃〃〃線「取らずして、返し遣はしけり。」とあるが、なぜか。次の□は、その理由をまとめたものである。

(1) に入る適当な言葉を書きなさい。ただし、(1)は古文Aの内容を参考にして十五字以内で書き、(2)は漢文Bの本文から二字で抜き出して書きなさい。

俊明は(1)であり、金を受け取って、謀反に関係する者という(2)をかけられたくないから。